

「夢のつばさ♥プロジェクト」の紹介とお願い

— 保護者を失った子どもたちの成長を見守り、夢を実現へ

室伏きみ子 「夢のつばさプロジェクト」企画担当、
お茶の水女子大学理学部/大学院教授、
人間情報学会会長、日本学術会議会員

2011年3月11日に東日本を襲ったマグニチュード9.0の巨大地震は、太平洋沿岸を中心に巨大な津波を誘発して、多くの方々の貴い生命や家・財産を奪いました。未曾有の大災害の犠牲者となられた方々に、深く哀悼の意を表すと共に、地震・津波の被害を受けた皆さま、東京電力福島第一原発事故の被害者となった皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

私たちは、被災された方々の心の痛みを少しでも減らすことはできないだろうか、さまざまな課題を抱えた方々のためにお手伝いできることはないだろうか、と考えてきました。

そして、大きな派手な仕事はできませんが、地道に、保護者を失った

子どもたちを長期的に見守ることができるのではないかと考え、孤児や遺児になった子どもたちと一緒に楽しい時を過ごす場を定期的に設けて、その成長を長く見守っていくことを、子ども達が成人するまでの間、継続して行こうと決めました。

夏や冬の長期休みに宿泊型のキャンプを開催します。そして、そこに集う子ども達がスポーツやレクリエーション、コンサートなどのさまざまな活動を経験し、共有するなかで、仲間を作り、自分自身を育て、さらには、この活動を未来に繋ぐ大人に成長して欲しいと願っています。

こうしたキャンプ活動に加えて、常時連絡や相談を受け付ける窓口を設け、医師、心理カウンセラー、遺伝

カウンセラー、教師らによる相談業務や、進学や就職などの進路相談を行うことも考えています。さらに、東京でのキャンプに参加できない子どもたちのために、また、参加した子どもたちとの関係を深めることも含めて、被災地の近くでの集まりをもつことについても検討を開始しています。

この活動には、多くの方々の温かいお心が寄せられつつあります。お茶の水女子大学を中心とする学生たちをはじめとして、企業ボランティア、NPO法人、カウンセラー、医療関係者などからの参加のお申し出があり、またさまざまな団体・個人の方々による支援の輪が広がっています。

私たちはこの活動を、子どもたち



夢のつばさ♥プロジェクト



の夢を実現するための活動と位置付け、子どもたちに強く羽ばたいて欲しいとの願いを込めて、「夢のつばさ♥プロジェクト」と名付けました。

本プロジェクトは、子どもたちの教育と未来に想いを寄せる NPO 法人「お茶の水学術事業会」（理事長：平野由紀子・お茶の水女子大学名誉教授）の一つの部門として位置付けられ、「遺伝カウンセリング・ジャパン」「ウェアラブル環境情報ネット推進機構（WIN）」「全国てらこやネットワーク」「幼児教育研究開発機構」の4つの NPO 法人が実施母体となって、活動を開始しています。

さまざまな計画を立てるに当たって、お茶の水女子大学同窓会「桜蔭会」の皆さま、とくに岩手県支部、福島県支部、宮城県支部の皆さまのご支援が大変大きな力となりました。各地の教育委員会等を訪問させて頂き、本プロジェクトのご説明をさせて頂いた際にも、桜蔭会の皆さまがこれまでに培ってこられた大きな信用が、私達を後押しし、どこでも、お話しがスムーズに進みました。有難いことと、心から感謝しています。

第1回キャンプは12月23日～26日

第1回キャンプを12月23日から26日に開催することを計画しています。それに先立って、8月9日から11日の3日間、名取市の保護者を亡くした子どもたちを招待して、プレキャンプを実施しました。短期間での準備でしたので、広く募集することができず、招待できた子どもたちは、わずか4名でしたが、学生や大人のボランティアを合わせて53名が参加して、キャンプの在り方を実際に体験し、学習した3日間でした。

学生の代表を務めたお茶の水女子大学3年生の竹内早紀さんが、感想を寄せてくれています（別掲記事）。素晴らしい感想ですので、ぜひ読んで頂きたいと思います。

若い人は覇気がないとか、自己中心的だとか言われることが多い昨今ですが、このプロジェクトに参加してくれている若者たちは、被災した子どもたちのために自分たちができることは何だろうと、一生懸命に考え、行動してくれる素敵なお若者たちです。そんな若者たちを見ていると、

日本の未来は明るいと思います。

なお、以下がホームページです。

<http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/index.html>

ご覧頂いて、子どもたちの未来へのご支援をお願い申し上げます。

なお、相談業務と地域での活動につきまして、皆さまからのご支援を賜りたく、ご寄付のお願いをさせて頂いております（個人1口：5000円、法人1口：10万円）。

ご寄付頂けます場合は、ご芳名、ご住所（連絡先）を、以下の事務担当までお知らせ下さいませよう、お願い申し上げます。

【連絡先】事務担当 滝澤公子
TEL/FAX 03-5978-5362
E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

【振込先】三井住友銀行大塚支店
（店番号 227）普通 1284220
名称：特定非営利活動法人お茶の水学術事業会理事長平野由紀子
（詳細は、HPをご覧ください）

孤児・遺児となった子どもたちが、其々の夢をあきらめずに済むように、私たちは努力してまいります。

重ねて、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。



プレキャンプに参加して 竹内早紀 お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科（仏語専攻）

3月11日の東日本大震災は、本当に凄まじいものでした。惨憺たる被害状況に、とても心が痛みました。自分にも何かできることはないのかと考えていた時、この「夢のつばさ♡プロジェクト」のお話を頂き、リーダーとして参加させて頂くことになりました。

プロジェクトには、50名にもおよぶ学生たちがボランティアとして登録し、精神的に活動しました。しかし、プロジェクトが発足した当時は、不安なことばかりでした。学生のほとんどにとってキャンプは初めての経験であるうえ、子どもたちと接するのも初めてという状態だったため、手探りでプロジェクトを進めていきました。

あるNPOが実施した福島の子どものためのキャンプを見学に行ったり、何度も会議を重ねながら、被災した子どもたちと共に楽しめる企画を練り上げました。時には意見が衝突することもありましたが、結果的に納得のゆくまで準備をし、当日に臨むことができました。

キャンプ当日を迎えてみると、それまでの不安を忘れるほど、ずっと笑顔で過ごすことができ、3日間はあるという間に過ぎました。今回は、学生に対して子どもたちが少なく心配でしたが、楽しそうにはしゃぎまわ

る子ども達と一緒に、学生も童心にかえって楽しむことができました。

夏らしく、バーベキュー、スイカ割り、また夜には花火も行いました。とくにスイカ割りは初めての体験だという子どもも多く、大変喜んでくれました。しかし、ただ楽しむだけではなく、準備から後片付けまで子どもたちも大人も一緒になって行うことで、人として大切なことも学べるようにと、心がけました。

また、今回のキャンプはさまざまな企業や団体にご協力頂きました。キャンプ2日目には、110mハードルの入江幸人選手がいらして下さり、プロの走りを見た子どもたちは目を輝かせました。徒競走が速くなる方法を教えて頂いたり、リレーや水鉄砲で対決したりしました。子どもたちは、入江さんに勝とうと、懸命に体を動かし、とびきりの笑顔を見せてくれました。

夜にはフラメンコギターの演奏グループであるDON ALMASが、演奏会を開いて下さいました。初めて聴く種類の音楽に子ども達は心を動かされた様子でした。また全員で「翼をください」を合唱したときには、子どもたち同士はもちろん、子どもと学生の間にも、強い絆を実感しました。

最終日に行われた植樹祭も印象的

でした。子ども達と一緒に、紅白の布で飾られたスコップで「あすなろ」の苗木を植え、これから共に成長しようと呼びかけました。

ほかにもたくさんの方の企画を行いました。どの活動も、さまざまな方々のご支援のおかげで、この「夢のつばさ♡プロジェクト」でしか味わえない、貴重な体験となりました。子どもたちも初めての経験の連続に、終始わくわくした様子を見せてくれました。

プレキャンプとして行われた今回のキャンプでは、冬の第1回キャンプに向け、交通手段の問題や、子どもたちの精神的ケアなど、さまざまな課題が明らかになりました。しかし、3日間を通して子ども達の笑顔がたくさん見ることができ、「また来るね!」と言ってもらうことができた今回のキャンプは、子どもたちにとっても学生にとっても、忘れられない夏の思い出となりました。子どもたちのためにと始めたキャンプでしたが、逆に私たちがとても成長させてもらったように思います。

課題はまだたくさんある「夢のつばさ♡プロジェクト」ですが、自分自身も成長させてもらいながらも、子どもたちが夢に向かって羽ばたくお手伝いをして行きたいと思います。